



よこはま プロバス通信

No9 2013年:2月発行

<http://yokohama.probus.web.fc2.com/TR3.html>

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市中区港町3-13番地 弁慶内 電話：045-651-3643

新春抱負

会長 大久保 武

今年は巳年（みどし）です。

十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）と十二支（子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥）

からなる六十干支では30番目の癸巳（みずのとみ）に当たります。

「巳」は「シ」とも読む 胎児の姿を表す象形文字であり 物事がいったん終結し新たに出発するという意味を含んでいます。

我が倶楽部も新たな決意でスタートすべく多彩な顔ぶれの皆様が参加され第135回新春賀詞交換特別例会が1月11日（金）横浜馬車道相生本店で開催されました。恒例の謡いを変更して会員の中村實様の「ゆく年、くる年」に因む「苗（名）字あ



れこれ」の話に始まり参加者全員の個性溢れる3分間スピーチで例年になく盛り上がり会員相互の親睦と情報交換を深める楽しい例会になりました。

昨年は6月に第6回神奈川県プロバスクラブ親睦交流会が「横浜港南台P.C.まるにえ」にて開催され12名が参加しました。一番新しいクラブで

すが地域にしっかりと根を張っていると思えました。

11月には第5回全日本プロバス協議会総会が神戸で開催された。加藤武、森山功常任理事の会長、幹事長就任をバックアップするため18名が参加し当倶楽部の心意気を示しました。

当倶楽部では 移動例会（横須賀軍港めぐり）、にこにこサロン、旅行同好会（北京観光）、ゴルフ同好会が開催され会員相互の親睦交流をより深め、各々が豊かな社会体験や知識等を語り合い学び合うことが出来る確信を得ました。

2014年には全日本プロバス協議会総会の開催が予定されています これらの諸事業の成功のために今後とも尽力してまいります。

どうぞ本年もご協力、ご支援をよろしく願います。

下半期の活動について

幹事 松下 尚雄

新春例会は山手ロータリークラブより3名様ご出席いただき盛大に楽しく終了することが出来ました。

さて下半期の活動は3Pで予告していますように4月一

泊親睦旅行兼移動例会を熱海ニューアカオホテルで計画。5月例会には藤木会長の特別放談が予定されており万全の準備で取り組んで参ります。

また長く懸案でありました「カラオケ同好会」が富永、加藤（道）、本橋氏3人を世話人により、いよいよ発足することになりました。詳細は3Pをご覧ください。これまで「にこにこサロン」（写真）「ゴルフ同好会」が定着してきております。同好会は大事な会員のコミュニケーションの場でもあります。これらの運営・企画・準備のために役員の皆様には多大な労力を頂き感謝いたしております。

情報委員会で取り組んでいただいているHPを初めITを使った情報交換や通信に本格的に取り組んでいきます。

次に会員の増強。特に女性会員の獲得をしていきたいと思えます。6月総会迄、当倶楽部の合言葉「会員一人が一人を紹介しよう」で、新しい仲間を増やし、親睦をより、広く弘め、残りの人生を大いに豊かにし、楽しみましょう。

更に全日本プロバス協議会に加藤武会長はじめ多数の役員を送り出すことになりました。名誉な事であり、記念すべき年となりました。出身母体として精一杯の支援をしていきたいと思えますので会員皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

最後に微力ながら残りの期間“立つ鳥跡を濁さず”のように役務を全うしたく会員皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

● 新会員紹介

すどう てるお
須藤 照夫さん



横浜市栄区在住の須藤照夫さんが1月新春例会で加藤武さんのご推薦・紹介で入会されました。

医療機器製造販売、日本ベクトン・ディッキンソン（株）マネージャー・センター長を務める。神奈川県出身。趣味はキャンピング、釣り、ゴルフ、DIY等。ボーイスカウト活動。

松下幹事が相模湾で釣り上げた魚を弁慶でさばいてもらい舌鼓。



《楽しい同好会》



● 待望の「カラオケ同好会」発足

世話人：富永和男、加藤道子、本橋ふみ子
12月理事会で「同好会」として承認されました。
場所：パブ・パラダイスPM7時30分まで貸切。第16須賀ビル8F（住所中区相生町2-29 ☎045-212-5219）
会費：3000円（飲み物、つまみつき）
開催：例会後、その他随時開催

☆各会員のコミュニケーションの場としてカラオケを通じて相互の親睦を更に深める。飲んで、歌って、踊って楽しいカラオケ同好会にしていきたいと思っています。プロバス会員以外の友人を誘っての参加もOK。楽しく、交流の輪を広げていきましょう。

「第一回カラオケ同好会」が楽しく開催されました（二月）



● 予告

4月12, 13日 一泊親睦旅行兼移動例会
熱海のニューアカオホテルを予定
これまでにない企画を用意してます。

5月10日（金）12:00 例会 馬車道相生本店。特別ゲストとして「横浜みなとよもやま話」と題して藤木幸夫氏がご講演の予定です。藤木氏は1930年生れの83歳。日本の港湾行政に深くかかわってきました。横浜では横浜港湾協会会長など横浜港にとってかけがえのない方です。（藤木企業代表取締役会長）



職場の先輩であり、横浜プロバス倶楽部にも紹介された武さんがご自宅を表敬訪問。若き時代の苦労話に大いに盛り上がり、卒寿を迎え、なお、かくしやくたる先輩に“乾杯”！（年末）



先輩：加藤義一☎さん。後輩：加藤武さん

<理事会報告>

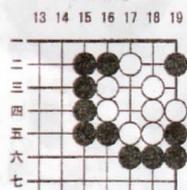
- 11月理事会（11月16日、14名）
（報告事項）
・第5回全日本PC協議会参加報告（「A11 NIPPONプロバス便り」年2回発行など。加藤会長、森山幹事長を横浜PCが支援する）
・例会委員長；「年忘れクリスマス特別例会」について
・情報委員会〈森山理事〉；通信8号は号外で全日本PC総会報告特集。9号は2月発行。
（協議事項）
・12月特別例会の内容
・1月例会（賀詞交歓会）の内容
・倶楽部財務状況報告
・4月移動例会；1泊親善旅行
H25年4月12日（木）予定
●12月理事会（12月21日、13名）
（報告事項）
・クリスマス例会抽選品保管場所来年度は弁慶以外を検討
・12/19横浜で開催の全日本PC協議会会長・副会長・幹事長打ち合わせ会報告
・ホームページ更新、ユーチューブも活用する（情報委から）
（協議事項）

- ・1月例会開催内容確認
・須藤照夫新入会員入会承認
全日本PC協議会幹事も担当
・2月例会の会員放談；岡部正久会員「当世マンション事情」
・カラオケ同好会発足；世話人は加藤道子、本橋ふみ子、富永和男3会員
・4月例会・1泊親睦旅行検討
・5月特別放談；藤木幸夫氏予定
●1月理事会（1月18日、19名写真☎）
（報告事項）
・1月例会反省等
（協議事項）
・2月例会内容確認 会員放談 岡部正久氏
・3月例会 会員放談 加藤豊氏
・4月移動例会 4月11日、12日 熱海 会より補助 約25名参加
・プロバス通信9号について

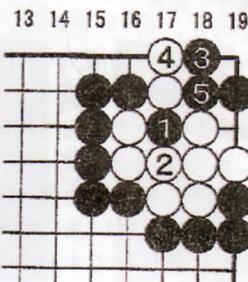


●○ 囲碁サロン

出題/解答 千喜良 忠



（前号で出題）
黒番です。白を無条件で殺してください。
ヒント：捨石を放ち、眼あり眼なしで仕留めてください。5分で3段



（詰碁解答）
黒1の捨て石から3のコミが巧手で、黒5まで眼あり眼なしの死に。黒1でコウになり失敗
白4、黒1、白5でコ

横浜で最も人気のあり恒例となった横濱交響楽団と合唱団による「第九」(昨年末)この日も小磯氏は多くの来客を迎えるだけでなく自らも演奏者としてステージに立った(神奈川県民ホール)



「市民のオルガン」

横浜交響楽団 理事長 小磯 智功

横浜交響楽団は、80年前の1932(昭和7)年創立以来アマチュア市民オーケストラとしてはギネス級の644回の定期演奏会を開催し、誰でもいつでも弾いたり聴いたりできる「市民のオルガン」として活動を続けています。

年8回、3年24回のコンサートでバロックから近現代・邦人作品まで一通り楽しめるように教科書の鑑賞名曲は勿論、プロの演奏会では営業的に取り上げにくく減多に聴く機会のない隠れた名曲の紹介なども含めてアマチュアでなければできない企画で自らの楽しみを越えて、音楽教育・青少年育成・地域文化振興とともに音楽文化の底辺を広げたいと頑張っています。

60年前神奈川県立音楽堂オープン以来、こどもの時からオーケストラ演奏に触れられるよう、横浜市との共催で横響定期演奏会を「青少年のための音楽会」として未就学児童でも親子で、あるいは孫を連れて気軽に家族で足を運べるコンサートとして横浜市立小中高の生徒・学生(希望者)を毎回招待しています。

また3.11以降毎回のコンサートでは「東日本大震災“がんばれ!こどもたち!!”」としての会場募金の協力もお願いし、昨年暮れの第九の演奏会までで累計100万円を超える義援金を東北に贈る事ができました。

是非横響の定期演奏会にもお越し頂き「市民のオルガン」による“楽興の時”をお楽しみ頂ければ幸いです。

(当倶楽部 理事・会計・事務局)



<編集後記> ▼12月発行の特別号8号に引き続き、第9号をお届けいたします。本号作成時の成人の日には、横浜にも大雪が降り大変な思いをされた方も多かったと思います。▼2月は更に寒くなるとのこと。それでも春はすぐそこまで来ています。▼会員の皆様と共に桜の春を元気で迎えたいと思います。4月の一泊親睦旅行兼移動例会も楽しみです。

(情報委員長・荻原信吾)

私の横浜物語②

鉄道発祥の地・横浜(上)

中村 實

(当倶楽部 理事・会計監査)

JR桜木町駅の改札口を出て、右野毛町方向へも、左みなとみらい地区方向へも行かず、直進しよう。突き当りに西洋人の肖像がガラス箱の中に見える。この人こそ「日本の鉄道の父」(写真下④)と呼ばれる英国人エドモント・モレル(1841~1871)だ。開港とともに政府は近代化推進に必須の鉄道建設を企画した。残念ながら当時鉄道に乗った人はおろか、見たことも無いのが当然だった。

多いときは360人もの英国人が鉄道建設のために来日し、邦人を督励しつつ尽力していた。

その中でもモレルは建築師長として短時日の間に横浜・東京間の鉄道を造り、明治5(1872)年5月7日(新

暦6月12日)

に横浜(現桜木町)・品川間が仮営業を始めた。更に新暦10月14日には横浜・汐留間で本

営業を始めた。

全国民の愛唱歌ともなった「汽笛一声新橋を」のとおりに、当時東京駅は未開業だった。29歳で夭折したモ



レル像に感謝の挨拶の後、根岸線の高架下を進もう。100mほど先に「鉄道発祥の地」の記念碑が現われる。台座は機関車の車輪、碑身にSLの機関の鉄板をレールで囲むと

いった工夫を加えたもの。(上⑤)

碑の近くにはゼロキロポイントが歩道に埋まっているが注意深く探せばすぐ発見できる。

また野毛方面への地下道入口には葉書2枚ほどの大きさの陶板が見え「開業当時の横浜駅長室の跡」の文字がかすかに読み取れる。

この辺りは日本では勿論、世界どこにも見られぬ希少、貴重な場所でもある。頭上に根岸線が走り、地上に人や車が往来し、その下には大岡川の水面があって小艇が航行、その下に首都高速羽横線更にその下を横浜市営地下鉄(ブルーライン)が走るという異種交通機関の5重立体交差地点なのである。(写真⑥)